令和６年度　北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】
１　報　告　地　区：檜山地区
２　事例報告学校名：上ノ国町立上ノ国小学校
３　報告者職・氏名：校長　吉　川　　聖
４　キ　ー　ワ　ー　ド：特色ある学校経営　保小中高連携

１　はじめに

上ノ国町は、北海道南西部の渡島半島の西方、檜山地方の南部に位置する。

15世紀初頭、渡島半島各地に12余りの館が築かれ、函館周辺が「下之国」、ここ上ノ国周辺が「上之国」と称され、その「上之国」の名前が残り、現在の上ノ国になったとされる。

このような古い歴史から、学校周辺には勝山館を始めとして、北海道内における文化財も多く残る上ノ国町である。しかし少子化等の問題から児童数の減少に歯止めがかからず、小学校の統廃合により町内の小学校数は２校、現在の本校の児童数は、122名となっている。

そのような中、「上ノ国町の児童生徒に『自分肯定の人生イメージ』を築き『生きる力』を育む『かかわりあい　学び合い　育ちあう　学びの共同体』の円滑な推進と実践を目指す」ことを目的に平成16年度に「上ノ国町かかわりあい　学びあい　育ちあう『学びの共同体』」が発足し、保小中高の連携を密にした取組が行われている。

２　令和６年度「上ノ国町かかわりあい 学び合い 育ちあう『学びの共同体』」

(1)　「上ノ国町として育成を目指す資質・能力」の明確化

「ウェルビーイングの実現」をキーワードとして、次のように明確化した。

上ノ国町として育成を目指す資質・能力	
知識・技能	豊かな対話を育む、話す力と聴く力
思考・判断・表現力	課題に気付き、主体的に改善しようとする力
学びに向かう力・人間性	互いを理解・尊重する力

(2)　研究テーマ

☆　「自分肯定の人生イメージを広げる生徒の育成～学びの主体性、学ぶ意欲を刺激～」

①　基本的な力をどの子にもつけ、学力を高める研究
②　「自分肯定の人生イメージを育む手立て」についての研究
③　「地域に根ざす学校」の教育活動の交流
④　「学びの共同体」の実践化を図る

これらの研究テーマのもと、学びの共同体「研修部会」、「連携部会」の二つの部会を組織し、具体的な取組が行われている。

３　具体的な取組

(1)　研修部会

①　小・中・高校授業交流会

小学校２校、中学校１校、高校１校が輪番で授業交流を実施し、町内の保・小・中・高校の教職員が授業参観できる体制を整えている。また、例年、上ノ国小学校を会場に公開研究会を実施し、共同研究者の大学教授や北海道教育庁檜山教育局のご指導のもと、学力を高める研究、異校種間の系統的な取組について町内の保・小・中・高校の教職員が一堂に会し、研修を深めている。

②　教育講演会の開催

共同研究者である藤女子大学人間生活学部子ども教育学科 教授 庄井　良信　氏を講師に招いての教育講演会を実施。令和５年度は、「学び合いからソーシャル・ウェルビーイングへ～『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を求めて」と題してご講演をいただいた。「上ノ国町かかわりあい　学びあい　育ちあう『学びの共同体』」のビジョンを広い政策、広い学習理論と上ノ国小学校の授業研究を共有して、子どものソーシャル・ウェルビーイングについて、参加者と一緒に考える講演会となっている。今年度も実施予定。

③　幼児・児童・生徒実態交流会

町内の保育所１校、小学校２校、中学校１校、高校１校の教職員で、各校の実態交流及び「自分肯定の人生イメージを広げる生徒の育成～学びの主体性、学ぶ意欲を刺激～」に向けて、保・小・中・高校が実施すること（したいこと）をＫＪ法を用いて交流。

(2)　推進部会

①　高校生によるピア・サポート授業

上ノ国高校ボランティア局による「出前授業」を実施。「情報モラル」に関わる出前授業では、上ノ国小学校、河北小学校の高学年を対象に、クイズによる情報モラル学習やアイスブレイク、グループトーク、全体発表、シェアリング等を実施。

②　上ノ国高校海外研修報告会

上ノ国高校は、海外研修費用の補助を受け、毎年５名の生徒が海外研修を行っている。この海外研修報告会に町内の小学校高学年や中学生も参加し、上ノ国町内で暮らし、「自分肯定の人生イメージを広げる」ための取組として、大切にされている。

③　小・中・高校合同交通安全キャンペーン

小・中・高校の児童会・生徒会執行部が中心となり、交通安全啓発活動を例年開催。高校生が小中学生を手助けするなど、異校種間の連携の意義を感じ取れる活動となっている。

④　小・中・高校による保育所参観

町内に１園ある上ノ国保育所の参観を実施。保育所での「遊び」を通した学びについて参加者で研修を深める。また授業後に交流会をもち、特に保育所と小学校での学びの接続をより確かなものにするための連携等について協議を行う。

特に今年度は、保育所の取組として「子どもと指導者の関係は、『子ども目線』を大切にし、仲間意識のもとに声掛けをするなどの関わりを大切にしていること（子どもたちは、『先生』ではなく『さん』という言葉を用いる）」という点について、「学びの共同体だより」を用いて、町内の保・小・中・高校すべての教職員と共通理解を図っている。

４　おわりに

平成16年度「上ノ国町かかわりあい　学びあい　育ちあう『学びの共同体』」の発足当時は総合的な学習の時間を基盤とした「ふるさと学習」の充実が主であった。そのような中、時代の急速な変化に対応する「学びの共同体」の見直し等の声が上がり令和３年度より、より効果的で効率的な教育の質の向上を目指す、新「学びの共同体」がスタートした。時代と共に変化し続ける「上ノ国町かかわりあい　学びあい　育ちあう『学びの共同体』」。これからも上ノ国町の幼児・児童・生徒が自分肯定の人生イメージをもてる大きな役割を担っている。